

中部日本ニュース

シネスコ版

中口新聞 No. 143 つるの里 一山ロー 117号 (本編トフへ追加)

高知新聞 No. 302 本編 No. 467 37.12.27

新愛媛新聞 No. 130

一、うさぎ島

— 愛知

四海波静かな三河湾にぼっかり浮ぶ前島(愛知県幡豆町)は人呼んで「うさぎ島」ここには五年前から三百羽のうさぎが放たれています。これは日本モンキーセンターの先生たちが生能研究のため考えついたものです。うさぎも人間なみ、派閥もあれば、ボスもあり、縄張り争いも仲々大変です。しかし飼育係の人々の努力がみのもつて強い警戒心も次第にやわらいできました。こうした珍しいうさぎ島はいち早く評判となり、観光客が続々と島を訪れるようになりました。うさぎたちは、訪れた観光客にあいさすをふりまき、大人たちまで大喜びでうさぎと遊んでいます。

一、初春モダンタイムス

— 長野・東京

一九六三年、今年もサラリーマンの戦争が始まりました。朝の通勤は地獄か、戦争か、そして職場に入れば各人の持ち場は細分化され、個人はまるで時計の歯車の様。ただ正確に作業の繰り返しを要求されるだけ。又仕事が歯車ならスイートホームは団地といらキカク品。この様に一から十まで型にはまったサラリーマンの生活では序々に個性が失われてしまうというもの、ささやかな生活の中でプラウン管の英雄に人気が集まるのも無理ありません。巷のこの英雄ブームをいち早くサラリーマンの欲求不満と見抜いたある観光会社ではこの程テレビの西部劇さながらにれつきとニッポンの中に西部の町を建設社長以下全社員、本場のカウボーイ姿で世のサラリーマン諸君に人間復活を呼びかけています。

ところがウエスタンムード位では物足りない向きが近頃流行のヨガ道場へと後を絶ちません。五千年もの昔、インドで生れた心身鍛練法がノイローゼ解消に今日復活するとは皮肉な話です。我身を痛めることよってノイローゼが治り、笑うことよって世のウサを笑い飛ばすという寸法。一法、こんな中で反サラリーマンの旗印をかかげて現代をカッポするのがプレイボーイなる方々。文字通り大いに遊ぶことを身上とするもの当のプレイボーイたちは大した生活派。東ばくされずに大いに働き大いに遊ぶそして個性を伸ばして行くというサラリーマンにとっては夢の橋なお話し。

だが人は人、お互いにひがむことなく、くさることなく、今年もがんばろうではありませんか。

645

360

287